

令和7年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：31008

学校名：山鼻中学校

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 ＜男子＞	○札幌市の平均より下回った種目 握力、上体起こし、反復横跳び、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ	○札幌市の平均と同程度もしくは上回った種目 長座体前屈、持久走
体力・運動能力 ＜女子＞	○札幌市の平均より下回った種目 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ	○札幌市の平均と同程度もしくは上回った種目 持久走
運動・スポーツへの意識、運動習慣	○札幌市の割合を上回った項目(女子) 「運動が好き、やや好き」 「保健体育の授業は楽しい、やや楽しい」 「進んで学習に参加している」 ○札幌市の割合を上回った項目(男子) 「進んで学習に参加している」 ○その他項目で札幌市の平均より多かった割合(男女) 「テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの平日の視聴時間が5時間以上」 「部活動やスポーツクラブに所属していない」	○体育が楽しいと感じる理由について割合が高かった項目(男女) 「できなかったことができるようになったとき」 「友達と交流したり、協力できたとき」 ○割合が低かった項目(男女) 「保健を学習して、もっと運動しようと思ったか」 「保健体育の授業で学習したことに気を付けた生活を送れているか」

札幌市の平均より下回った種目が多かった。運動が好き、または運動を大切に感じる生徒の割合が低く、自主的に運動をする生徒が少ないことが要因にあると考える。

運動が好き、やや好きと答えた生徒は札幌市の平均より多かったが、卒業後も自主的に運動したいと答えた生徒は少なく、余暇活動などにおいて運動の位置づけが低いことが考えられる。

令和6年度は、部活動やスポーツクラブに所属していない生徒の割合が比較的多かった。またスマートフォンなどの平日の視聴時間が5時間以上になる生徒の割合が札幌市の平均より多かった。部活動やクラブに所属していない分、放課後の余暇時間が多くあり、その時間を運動ではなくスマートフォンなどの活用に費やしている可能性がある。

進んで学習に取り組む生徒は多いが、運動そのものに魅力を感じているのではなく、運動はあくまで体育の授業でおこなうものと捉えている可能性がある。今後は運動そのものの大切さや楽しさを実感できるような指導が必要である。

三つの取組

①体育・保健体育等の授業の充実

②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③子どもが自らの健康づくりを図る取組の充実

具体的な取組

○授業において個々の課題を明確化するような授業の組み立てと生徒による課題解決に向けた取り組みの実戦
○生徒が運動の大切さを実感できるよう、主体的・自主的活動の推進
○協働作業による課題解決学習の推進

○昼休みの体育館、グラウンド使用における運動の推奨
○生徒による体育大会(年2回)の企画運営
○長期休業期間における自主的な運動の取組の計画・実施

○委員生徒による手洗い・うがいの励行
○給食だよりや保健だよりを発行し、自ら健康について考える機会の設定
○外部講師による「命の授業」の実践

家庭・地域との連携・協働

○生徒や保護者対象の学校評価アンケート、栄養士会による食育アンケートなどの結果を活用し、育成プログラムに反映